

11. (Gno.28) 家族の現代的変容と家族法

代表：野澤 紀雅

1996/06/14 (承認) 1996 年度 (開始)

【研究の目的】

わが国を含めたいわゆる先進諸国における家族関係は顕著な変化を見せており、これに対応すべく、種々の制度改革の試みが盛んになっている。この共同研究の目的は、家族の現代的変容の社会学的把握を前提として、家族をめぐる各国の法制度の動態を比較研究することにある。

【研究活動及び成果】

総括

本年度は1回の研究報告会を開催した。2020年3月14日開催を予定していたところ、新型コロナウイルスの影響により延期していたものを、リモート方式により開催した。グループメンバー10名のほか、報告内容に関心を持つ大学院博士課程前期課程の学生2名も参加し、活発な質疑応答がなされた。

学術雑誌

阿部 純一「ドイツ婚外子配慮法の実務動向について：2013年改正法の評価を中心に」『法学新報』127巻3・4号(2021年)

力丸 祥子「外国でなされた代理出産とフランスにおける法律上の母との親子関係：破毀院全体部2019年10月4日判決を契機として」『法学新報』127巻3・4号(2021年)

力丸 祥子「外国においてなされた生殖補助医療により出生した子との親子関係をめぐって：フランス破毀院全体部2019年10月4日判決以降の動向を中心に」『法学新報』127巻5・6号(2021年)

口頭発表

2021年1月30日 阿部 純一「ドイツ婚外子配慮法の実務動向：2013年改正法の評価を中心に」

2021年1月30日 力丸 祥子「外国でなされた代理出産とフランスにおける法律上の母との親子関係：破毀院全体部2019年10月4日判決及びその後の動向をめぐって」